

乳房浮腫の心配は無い

「乾乳牛に塩を給与すると乳房浮腫の原因となる」と古くから云われていました。しかしその研究は乾乳牛に1kg以上の法外な量の塩を給与しておこなわれた研究だったとのこと。

現在では「代謝タンパク質の不足」「急激な乳房内血流量の増加と過剰なリンパ液の貯留」「酸化ストレスの結果」などが乳房浮腫の原因と云われています。

乾乳牛にももちろん塩分の要求量があります。農場や状況によりますが、少なくとも1日1頭当たり20～30gの塩の給与が必要です。その他、鉱塩や塩桶などのフリーチョイスも設置することも必要です。

特に暑熱期の要求量は増加するので、乾乳エリアに塩っ気がないということが無いようにしましょう。また同時に清潔な飲水もあることは言うまでもありません。



水飲み場の近くに塩をおく 原画 アカバネ 鈴木先生

ナトリウムはアシドーシスリスクを下げるために必要

第一胃内で過剰な酸が産生され、それによる第一胃微生物の死滅と毒素の産生により牛の代謝や免疫等にさまざまな悪影響をおよぼすルーメンアシドーシス。第一胃内で産生された酸を第一胃壁から吸収する際に、実はナトリウムが重要な役割をになっています。つまりナトリウムが足りない状況では酸が第一胃内に蓄積してしまい、よりルーメンアシドーシスのリスクが高くなるわけです。これからの季節、暑さにより牛の採食行動の変化もあいまって、なおルーメンアシドーシスのリスクが高くなります。塩の給与を忘れないでください。

こんな牛を見たら何を疑うか？

放牧牛が土手の土を喰ったり、通路や地面の汚水や尿を飲む「異食症」。

原因はさまざま云われています。

- ① マグネシウムやリンの欠乏
- ② ルーメンアシドーシス
- ③ 塩の欠乏

